

大会宣言（案）

私たちは、本日、記念すべき第20回定期大会を開催し、党員の活発な討論により、この1年間の活動を総括し、新たな運動の方針を決定しました。この間、私たちは結党の原点である護憲・労働者の党として、平和と生活の危機に対し全力で闘いを組織してきました。しかし、20年前と比べて、経済的、政治的客観情勢はますます厳しくなっており、我々の主体的力量も低下してきていると言わざるを得ません。そのため、改憲を公言し、財界を優遇・国民生活の破壊の政策を続ける安倍政権を止めることができていません。

安倍政権の三つの大罪、「戦争法」「原発再稼働」「沖縄米軍基地建設」を絶対許さないと全国各地で運動が展開されています。一昨年9月19日に強行採決された「戦争法」に抗議する「19日行動」は、毎月信玄公前に全野党・労働組合・市民団体が結集して抗議行動を続けてきました。その力は野党共闘実現させ、7月の参議院選挙で野党統一候補、宮沢ゆか参を当選させることができました。私たちは次期総選挙においても野党共闘を実現させ、「戦争させない」世論を作り上げることに全力を挙げなければなりません。

「原発いらない！未来を守ろう！」とみんなで声を合わせながら毎週金曜日に脱原発のデモ行進する「甲府でもやるじゃん」は、5年目になります。福島第一原発事故から丸6年を経過していますが、復興は遅々として進んでおらず、放射線量も高い中で、政府は避難指示区域を解除して帰宅を促しています。一方で、安倍晋三首相は東日本大震災の政府主催追悼式の式辞で「原発事故」の文言を使わず過去の出来事として納めようとしています。このような福島第一原発事故を風化して原発再稼働を進めようとする策動を許してはなりません。私たちは脱原発のあらゆる運動に積極的に参加していきます。

辺野古新基地建設を許さないという圧倒的な沖縄県民の意志は示されている中で、建設推進が強行されています。辺野古ゲート前座り込み行動には全国各地に支援の輪が広がり、山梨県本部の党員も参加して現地おきなわの想いを地域に広げる活動をしています。去年はヤンバルの森を切り裂いてヘリポート建設を強行する東村高江に、建設反対の座り込み行動が集中しました。まだまだ沖縄米軍基地問題について、本土では他人事という意識が強く、それが安倍政権の暴挙を許す要因となっています。沖縄映画会や沖縄報告会などの開催を通して沖縄との連帯を紡ぎ出す行動を行っていかねばなりません。

この他、安倍政権の経済政策、労働法改悪、反動的な教育政策、年金改悪などなど、私たち新社会党の取り組むべき当面の課題は山積していますが、党勢拡大に努め、運動の強化をはかり、国民に期待される政党に躍進することをめざしていきます。

本日の第20回定期大会で議論され決定された活動方針を、党綱領の指し示す路線に沿って全党員が全力で取り組みましょう。そして、その闘いの成果が搾取と階級対立のない新しい社会の実現につながることに自信と確信を持ち、一致団結して闘い抜くことをここに宣言します。

2017年3月16日

新社会党山梨県本部 第20回定期大会